

# 植物のふしぎ (II)

目黒修治

都市部の喧騒を逃れて、森へ行くとたぶん誰もがすがすがしく感じ、とてもゆったりした気分になり、なぜかしら空気もおいしく感じられる(空気に味や匂いがあるとは思えないが)らしい。人間の心身の健康のために、森の緑の中でゆったりとした時を過ごし、おいしい(?)空気を思いっきり吸って来ることがとても良いことだと……。

数年前になるだろうか、“森林浴”という言葉をよく耳にした。

都市部の生活者にとって、ホコリと排気ガスに汚れた空気から離れ、山のきれいな空気を吸うことは、それだけでも健康に良いだろうことは想像にかたくない。草木の花を見、小鳥のさえずりを聞き、目にしみる様な若葉の緑は我々の生命の奥底を揺さぶる何かがある気さえする。でも、それだけで

は無い、何かがまだまだ沢山あるようだ。

新潟名物の笹ダンゴ、富山名産マスの寿司、田舎のおふくろが送ってくれるチマキは、みんな笹の葉で包まれている。昔の人は、何で食べ物を笹の葉で包んだのだろう。笹の葉の大きさが、丁度手ごろで、身近に沢山あり、使い捨てが出来る携帯食用の包装材として適していたから。もちろんそれも多に正しいと思うが、実は笹の葉には食べ物を長い時間腐らせないで、保存しておく効果があったのです。昔の人がその事を知っていて笹の葉を使ったのかどうかはわからないが、これはまぎれもない事実です。

簡単な実験を行ってみませんか。“なるほど”とうなずけますよ。

## 実験方法 (梅雨時期～夏の頃が最適)

- ① 残ったごはんか食パンを少し皿の上に乗せ、これに牛乳を少しかけたものを2皿つくります。
- ② 1皿はそのままだし、残りの1皿には笹の葉をきざんだものをごはんの周りに置きます。
- ③ 両方の皿の上にごはんがすっぽり入る程度の大きさのプラスチックかガラスの器をかぶせて準備完了。

笹の葉が入っていない方は、1週間程度でカビが生えてきますが、笹の葉を入れた方は2週間くらいはカビが生えない(たぶん)と思います。(私の実験ではそうでした)とってもふしぎです。その他桜餅や柏餅もやはり、同じ様な食べ物な

んだと思います。(ちなみに桜の葉には笹の葉と同じ様な防腐効果がありました。)

私は最近、とってもふしぎな、そしてすばらしい内容の本を見つけました。内容の一部を紹介しましょう。

## フィトンチッド

『シラカバやカシ、オレンジの樹の葉だとか、トドマツやネズの針葉を摘み取ったり、野生のシャクヤクの若い根や、ワサビの地下茎、エゾノウワミズザクラやその他の植物の実を取り、それらを出来るだけ素早く細かく切り刻み、そこから数センチ離れた所に普通は顕微鏡でしか見られないアメーバや滴虫類などの微生物を含んだ小滴を一つ落とす。この場合、原生動物を含んだその小滴は、植物の材料に決して接触することがない様にして実験する。20分後にはすべての原生動物は死滅してしまう。原生動物が死滅するのに要する時間は、選んだ植物の種類や刻んだ量等いろいろな条件によって異なる。』

『ニンニクの殺菌力は驚くべきものがある。液体一滴の中のアオカビの胞子がまったく発芽しない様にするには、ニンニクのおろしを1/10g量容器の底に入れて、30～45秒作用させるだけで十分である』

『人間にも病毒となるものも含めた多くの細菌を殺す殺菌特性が見られるのは、次の様な植物である。

タマネギ、ワレモコウ、ニンニク、シロガラシ、ダイコン、トマト、ジャガイモ、ニンジン、トウモロコシ、シモツケソウ、野生シャクヤク、赤コショウ、ゴボウ、サトウダイコン、コショウ、オランダミツバ、パセリ、ゲッケイジュ、アロエ、イラクサ、ネズ、オオバコ、その他多くの植物がある。

針葉樹の葉、エゾノウワミズザクラの芽、サクラ属、ウラジロハコヤナギ、ユーカリ属、オオアサ、カノコソウ属、カ

ンアオイ、キズイセン、クサノオウの葉、その他多くの植物の様々な部分と器官が研究され、それらが殺菌特性を持っていることがわかった。』

『生物学と医学にとって、特に興味あるのはニンニク、タマネギ、シロガラシ属、シロガラシ、ニンジン、キャベツ、ダイコンなどの食用植物の持つフィトンチッドとしての特性である。それらの多くが持つ抗微生物特性は驚くべきものである。人間にとって病毒となる細菌でニンニクのフィトンチッドが殺せないというようなものは今のところないのである。健康な歯を持った健康な人間の口腔の中には、常に何らかの細菌、菌類、スピロヘータがいる。それらの微生物を殺してしまうには、2～3回ネギ(ニンニクならなお良い)をかむだけで十分である。』(植物の不思議な力=フィトンチッド=講談社)

私達の身の回りにある植物達に私達の知らなかったこんな不思議な力がそなわっている事は大きな驚きである。と同時に人間の無知をも明らかにする意味が大きい。私達人間は植物を殺し、それを利用することで今日の繁栄を築きあげて来たと言える。私達は、植物に危害を加えるが、植物達が我々に直接危害を加える事はまずほとんど0に等しい。従って我々は植物の事を知っている様な気で今日を過ごしているが、実はほとんど何も知らないと言っても良いだろう。「何も知らない」という事を認めた上で、もう一度植物達と出来るだけ仲良くつきあう方法を考え直してみたい。

(グリーン・シグマ株式会社)